

日本東アジア実学研究会主催
第十一回「実心実学読書会」

日時：3月13日（日）14：00～17：00（日本時間）

作品：**沼崎一郎さん**『人類学者、台湾映画を観る：魏徳聖三部作
『海角七号』・『セデック・バレ』・『KANAO』の考察』（風響社、2019/6/10）

コメンテーター：**閻秋君さん**（東北大学GSICSフェロー）
鈴木規夫さん（愛知大学・教授）

プログラム

【第一部 90分】

- 14:00-14:10 沼崎さんご紹介、趣旨説明（片岡）
- 14:10-14:30 参加者**自己紹介**（“わたしの生活運動・実践”など）
- 14:30-14:50 エンさん**コメント**
- 14:50-15:00 沼崎さん**リプライ**
- 15:00-15:20 鈴木さん**コメント**
- 15:20-15:30 沼崎さん**リプライ**
- 15:30-15:40 **休憩**

【第二部 80分】

- 15:40-16:55 参加者との**対話**
- 16:55-17:00 閉会挨拶、次回予告（片岡）

沼崎一郎さんご紹介

1958年 宮城県生まれ。

1982年 東北大学文学部（心理学専攻）を卒業。ミシガン州立大学大学院に留学。

1986-89年 台湾中央研究院 民族学研究所 訪問学員としてフィールドワーク。

1991年 ミシガン州立大学大学院 博士課程修了。

1992年 ミシガン州立大学よりPh.D.(人類学)の学位取得。

1991年 東北大学文学部 講師に着任。

2000-01年 ハーバード大学 イェンチン研究所 客員研究員。

2004年 東北大学大学院文学研究科（文化人類学）教授。

※主なフィールドは台湾、香港。

日本では女性への暴力に取り組む市民運動とアドボカシー活動に参加。

単著：『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応』嵯峨野書院 2001

『なぜ男は暴力を選ぶのか』かもがわブックレット 2002

『「ジェンダー論」の教え方ガイド』フェミックスブックレット 2006

『台湾社会の形成と変容』東北大学出版会 2014

『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書 2018

『「支配しない男」になる』ぷねうま舎 2019 ほか



趣旨説明（「東アジア」「実学」読書会としての今回のめざし）

1、魏徳聖三部作から、台湾に対する「**この私**」の**三種の異なる視線**（インペリアルな視線、アンチインペリアルな視線、ポストコロニアルな視線）の共存と競合をきわめて率直に自己分析した沼崎さんとの対話を通じて、第十回読書会で議題となった〈「われわれ」問題〉を続けて議論し、**「東アジア」**に向き合う「**この私**」たち自身の自己変革に資する。

2、**「実学」**の研究と実践の往復の必須性を認識共有する。

“研究から実践へ、そしてまた研究へ”（文学研究科・文学部HP「教員のよここがお」）

「台湾の経済と社会の変化」は私の生涯の研究テーマ。東日本大震災をきっかけとして、台湾と日本、特に台南市と仙台市との交流にも関わり始めた。[...]日本での生活を通して、いろいろな社会運動に足を突っ込んでいった。夫婦別姓、セクハラやDVの被害者支援、障害者の自立生活運動、定住外国人のサポート等。そこから、「文化と人権」、「ジェンダーと暴力」といった研究テーマも見つけた。こうして、研究と実践とを往復している。

cf. 台湾大地震 ~1999.9.21

※中心地は『セデック・バレ』の舞台

次回予告

【オンライン実心実学読書会第12回】

日時：4月 日（ ）14：00－17：00（日本時間）

対象図書：阿部亘『李贄：明末〈異端〉の言語世界』

（早稲田大学出版部、2022.3.15）

<http://www.waseda-up.co.jp/cat664/post-832.html>

コメンテーター：片岡龍（東北大学 教授）？

儒仏道三教を融合し、小説や戯曲を愛好し、暗雲たちこめる明代末期の朝野を駆け抜けた異端思想家、李贄(1527-1602)。

その思索は伝統に根ざしながら、中国思想の新たな地平を切り拓くものであった。

言葉への盲目的服従は、人を束縛し、本来の「心」を失わせる――彼は言葉の機能を問い続けた。

歴史、政治、学びの場、文学の世界、死生観をめぐって、李贄の言葉の旅を辿る。

